

健康とくらしの調査 2019年

地域診断 概要_鳥取市

JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) は、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的としています。2019年度には、全国の64市町村と共同し、約37万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの30人を超える研究者が、多面的な分析を進めています。

本概要は、JAGESが実施した「健康とくらしの調査 2019」データを用い、介護予防や地域づくりに向けた地域診断の概要をまとめたものです。

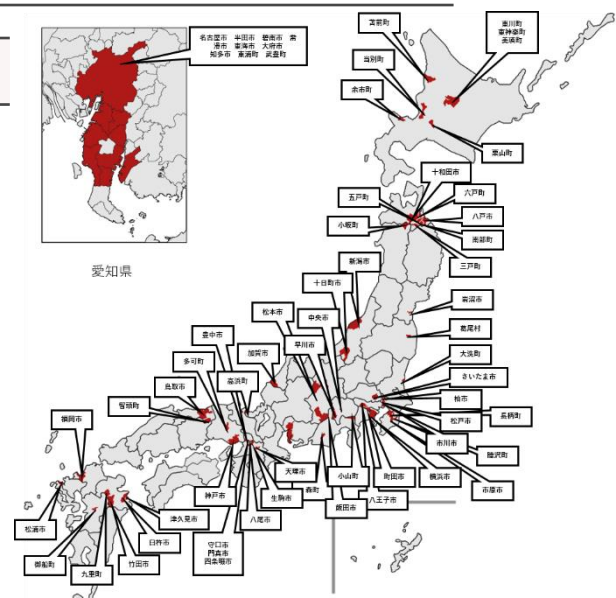


鳥取市_健康とくらしの調査概要

対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
対象者数	6,300人
調査期間	令和2年1月6日～令和2年1月27日
回収数(率)	4,248票(67.4%)
集計数(率)	4,230票(67.1%) *年齢無回答や白票などを除いた
調査方法	サンプリング調査

全参加自治体_健康とくらしの調査概要

対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
参加数	64市町村(56保険者)
対象者数	368,982人
配布回収	郵送法、一部訪問調査
調査期間	令和元年11月25日～令和2年2月10日
回収数(率)	254,396票(68.9%)
調査方法	全数調査またはサンプリング調査



特徴・強みと課題

目的

他の市町村と比べた、鳥取市の特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法

JAGES2019年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国64市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果

64市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

特徴・強み

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
2	コア:要支援・要介護リスク得点の平均点	鳥取市	14.3	22	■				4,020	14.6	12.9	18.6
15	コア:学習・教養サークル参加者割合	鳥取市	9.8	22	■				3,268	8.1	2.8	14.5

- コア指標25指標のうち、全国64市町村の中で、鳥取市が上位に入り、特徴・強みと考えられるのは2指標でした。
- 健康指標は1指標で「要支援・要介護リスク得点の平均点*1」が14.3点（64市町村の最小12.9点～最大18.5点、中央値14.6点）より低い、でした。
- 「学習・教養サークルの参加割合」9.8%と中央値8.1%よりも高く、上位でした。

*1：要支援・要介護リスク得点の平均点

年齢と性別、基本チェックリストの10項目への回答から算出した得点で、点数が高いほど、3年後の要支援・要介護認定リスクが高まる

課題

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
1	コア:幸福感がある者の割合	鳥取市	41.4	55	■				3,784	47.6	38.0	54.4
4	コア:運動機能低下者割合	鳥取市	10.8	50	■				3,960	9.0	5.0	16.2
10	コア:うつ割合（GDS5点以上）	鳥取市	29.5	57	■				3,909	24.4	18.2	34.5
21	コア:手段的（看病や世話）サポート受領者割合	鳥取市	94.1	50	■				3,921	95.2	89.9	96.9
24	コア:ソーシャル・キャピタル得点（連帯感）	鳥取市	152.0	51	■				3,944	158.0	135.8	181.1

- コア25指標のうち、全国64市町村の中で、鳥取市が下位2割に入り、課題と考えられるのは5指標でした。
- 健康指標は3指標で「幸福感がある者の割合」が41.4%と中央値47.6%より低い、「運動機能低下者割合」が10.8%と中央値9.0%より高い、「うつ割合（GDS*25点以上）」が29.5%と中央値24.4%より高い、でした。
- 「手段的サポート受領者割合」、「ソーシャルキャピタル得点（連帯感）*3」も下位2割に留まり、課題と考えられます。

*2：GDS（Geriatric Depression Scale）

高齢者を対象としたうつ症状のスクリーニング検査（15問）、5点以上でうつ傾向と判定

*3：ソーシャルキャピタル得点（連帯感）

地域への信頼・愛着・規範（社会のルールを守るかどうか）により採点した得点

まとめ

- 特徴・強みは、「要支援・要介護リスク得点の平均点」、「学習・教養サークルの参加割合」が高いことでした。
- 一方、課題は、「運動機能低下者」「うつ」が多く、「幸福感がある者の割合」が低いことと考えられます。

特徴・強みや課題と関連する要因

目的

どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

方法

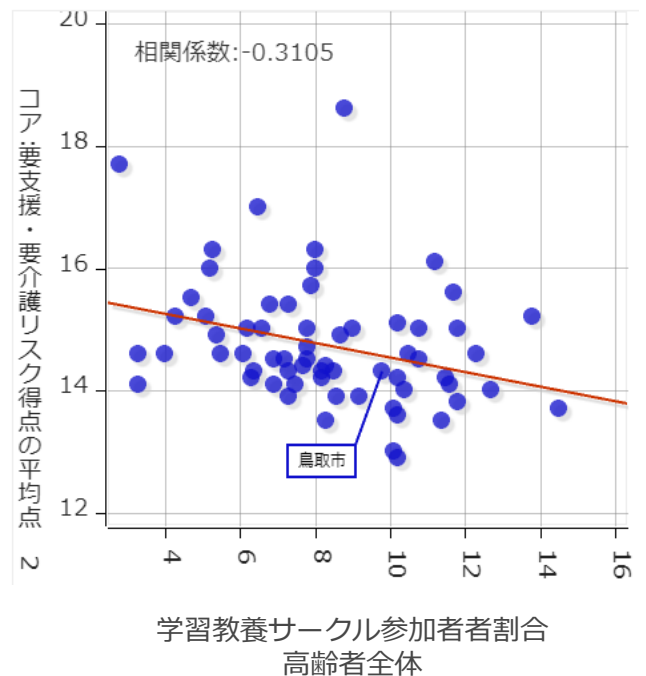
JAGES2019年度調査に参加した64市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

結果

特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがありました。

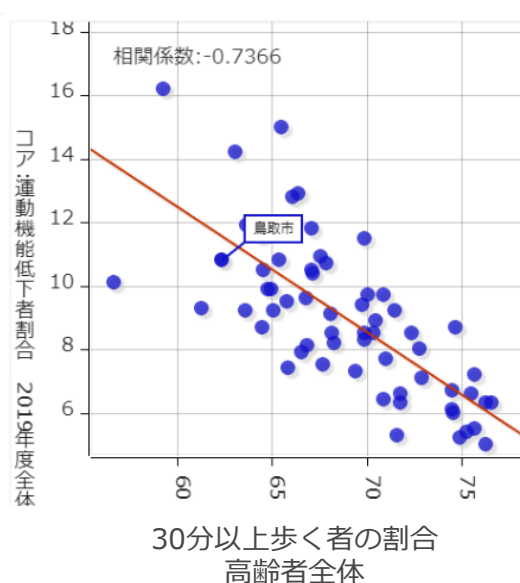
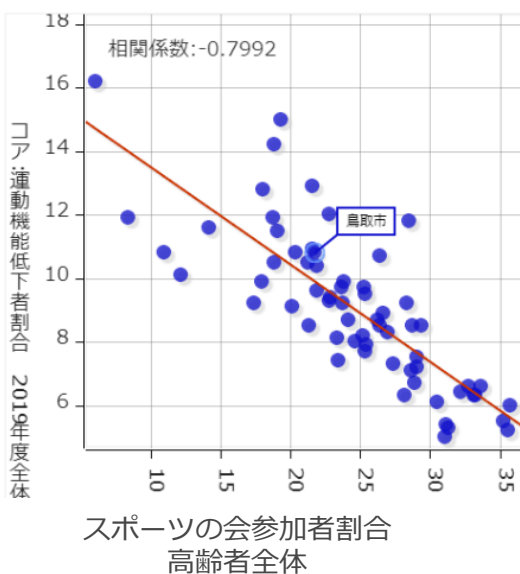
1. 学習教養サークル参加者割合が高い市町村では要支援・要介護リスク得点の平均点が低い

- 学習教養サークル参加者割合が高い市町村では、要支援・要介護リスク得点の平均点が低い。
- 鳥取市は学習教養サークルの参加者割合が高いことが要支援・要介護リスク得点の平均点が低いことの一因と考えられ、これらを維持するために、引き続き学習教養サークル参加者割合を高い水準で維持することが重要と考えられます。



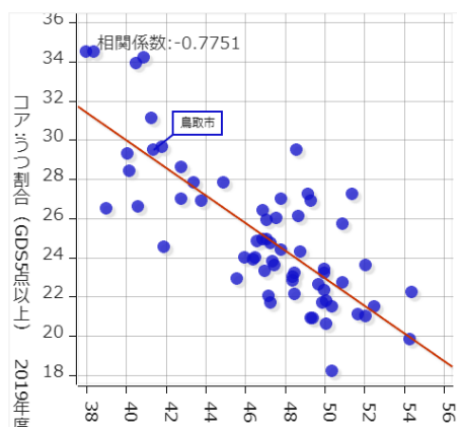
2. スポーツの会参加者、歩く人が多い市町村は運動機能低下が少ない

- スポーツの会参加者割合、30分以上歩く者の割合が高い市町村では、運動機能低下者割合が低い。
- スポーツの会参加者割合、30分以上歩く者の割合を高めることで鳥取市の課題である運動機能低下割合の改善が期待できます。

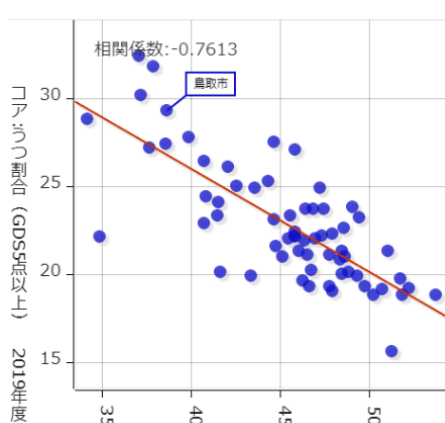


3. 幸福感とうつは相関する

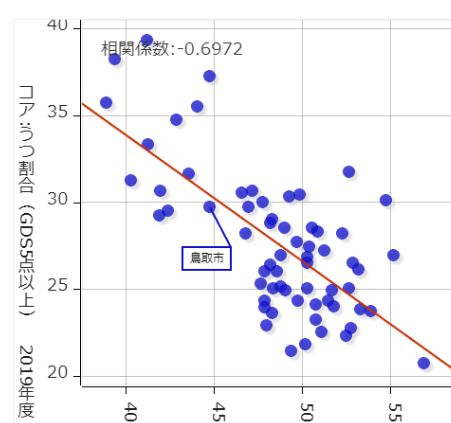
- 幸福感がある者の割合が低い市町村はうつ割合が高い。
- 鳥取市の課題である幸福感の低さとうつ割合の高さは高齢者全体、前期・後期高齢者の全てで相関関係がみられました。



幸福感がある者の割合
高齢者全体



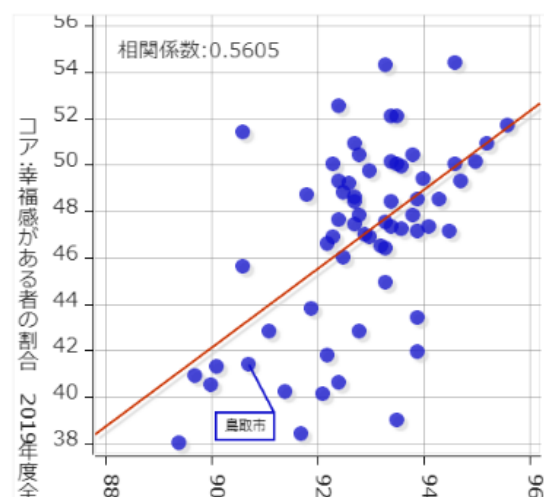
幸福感がある者の割合
前期高齢者



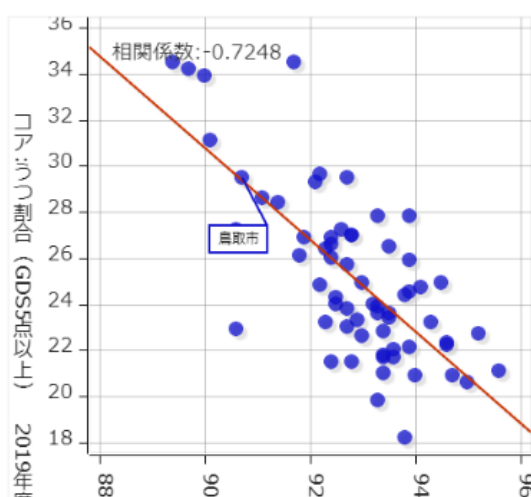
幸福感がある者の割合
後期高齢者

3. 笑う人が多い市町村は幸福感が高く、うつが少ない

- 笑う者の割合が高い市町村では、幸福感がある者の割合が高く、うつ割合が低い。
- 笑う者の割合を高めることで鳥取市の課題である幸福感がある者の割合、うつ割合の改善が期待できます。



笑う者の割合
高齢者全体



笑う者の割合
高齢者全体

まとめ

- 鳥取市は学習教養サークルの参加者割合が高いことが要支援・要介護リスク得点の平均点が低いことの一因と考えられ、これらを維持するために、引き続き学習教養サークル参加者割合を高い水準で維持することが重要と考えられます。
- 鳥取市の課題である運動機能低下割合は、スポーツの会参加者割合、30分以上歩く者の割合と相関を認め、幸福感がある者の割合の低さ、うつ割合の高さは笑う者の割合と相関を認めました。
- スポーツの会参加者割合、30分以上歩く者の割合、笑う者の割合を高めることが鳥取市の健康課題の改善につながる可能性が示されました。

市町村内比較から探る重点支援対象地域

目的

課題だと分かった指標について、鳥取市内の小地域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点支援対象地域を明らかにすることを目的としました。

方法

自治体内小地域別データを用いて、比較しました。

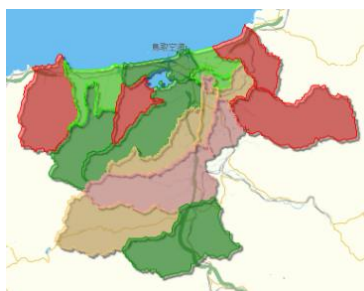
結果

自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

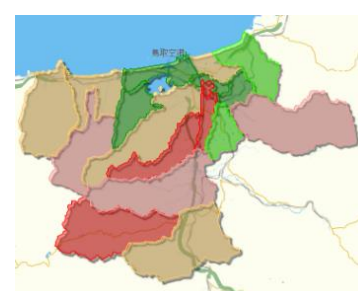
1. 運動機能低下者割合小地域比較

- 運動機能低下者割合には、5.5～14.0%の小地域間差がありました。
- 重点支援対象地域は、前期高齢者では、福部、国府、湖南学園、後期高齢者では、南、江山、西でした。

前期高齢者



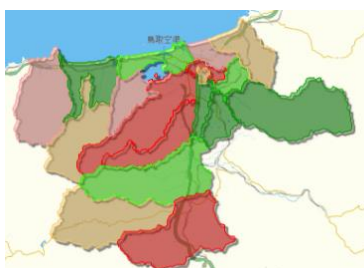
後期高齢者



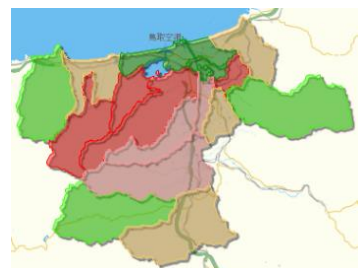
2. 幸福感がある者の割合の小地域比較

- 幸福感がある者の割合には、34.0～46.0%の小地域間差がありました。
- 重点支援対象地域は、前期高齢者では、江山、高草、用瀬、後期高齢者では、高草、湖南学園、鹿野学園でした。

前期高齢者



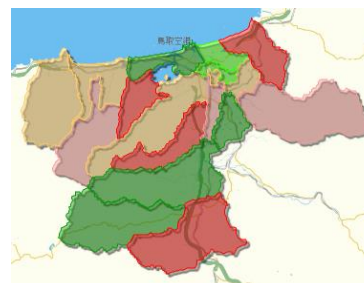
後期高齢者



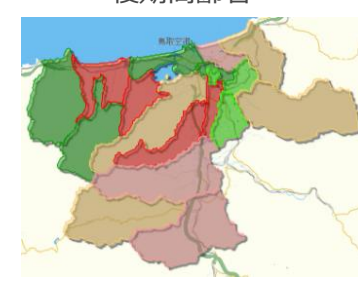
3. うつ割合の小地域比較

- うつ割合には、21.1～39.8%の小地域間差がありました。
- 重点支援対象地域は、前期高齢者では、湖南学園、江山、用瀬、後期高齢者では、江山、湖南学園、南でした。

前期高齢者



後期高齢者



まとめ

- 鳥取市の健康課題である運動機能低下者割合には2.5倍、幸福感がある者の割合には1.4倍、うつ割合には1.9倍の小地域間差があることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、指標と前期・後期高齢者で異なることがわかりました。
- 運動機能低下者割合は、前期高齢者で福部、後期高齢者で西が重点支援対象地域でした。
- 幸福感がある者の割合、うつ割合は3つ以上に該当した江山、湖南学園が重点対象地域でした。

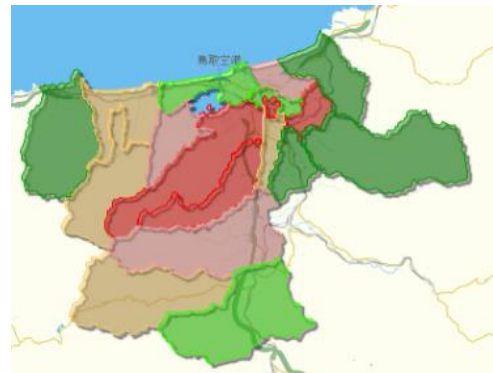
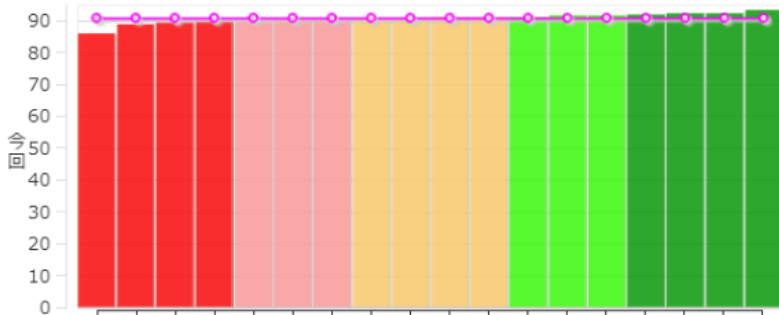
市町村内比較から探る改善の手がかり

- 目的** 多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小地域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。
- 方法** 市町村内小地域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。
- 結果** 市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

1. 笑う者の割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

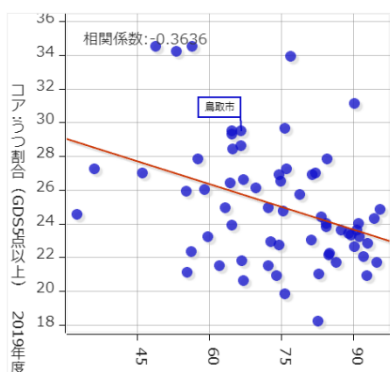
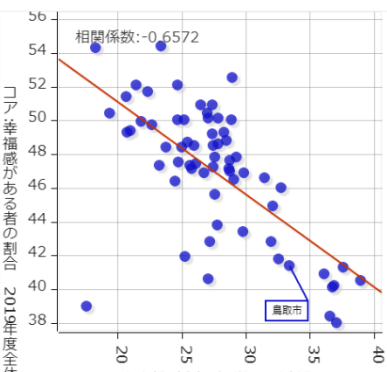
- 笑う者の割合は、高齢者全体では、85.9～93.3%の小地域間差があった。
- 幸福感がある者の割合、うつ割合の重点支援対象地域である江山（89.5%）、湖南学園（90.2%）は市内では笑う者の割合が低い地域でした。
- 手がかりは、桜ヶ丘（93.3%）、福部（92.4%）、青谷（92.3%）など。

高齢者全体：笑う者の割合



* 江山・湖南学園の特徴

No	指標名	小地域名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
59	重要:経済的不安がある者の割合	江山	39.8	17	■				216	32.5	27.3	42.1
		湖南学園	39.7	16	■				214	32.5	27.3	42.1
62	重要:商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合	江山	49.3	15	■				215	64.1	30.9	94.0
		湖南学園	30.9	18	■				217	64.1	30.9	94.0



- 経済的不安がある者の割合が高い市町村は幸福感がある者の割合が低い
- 商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合が低いとうつ割合が高い
- 江山、湖南学園は経済的不安がある者の割合が高く、商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合が低い
- 経済的不安に対する相談事業や移動販売の検討などが有効な可能性もあり

経済的不安がある者の割合
高齢者全体

商店・施設・移動販売が
徒歩圏内にある者の割合
高齢者全体

3. グループ活動への参加意向がある者は5割以上、企画・運営の意向がある者は4割以上

- 前期高齢者における運動機能低下割合の重点対象地域である福部地域では、運動機能低下者割合と関連するスポーツの会参加者割合が小地域内で低くなっていました。
- 「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は、福部地域の前期高齢者は高く56.0%でした。
- さらに企画・運営（お世話役）としての参加の意向がある者の割合も、41.1%となっていました。
- このような人たちに集まっていただき、既存のグループ活動への支援や新たなグループ活動の立ち上げについて検討すれば、スポーツの会などのグループ活動が増え、運動機能低下が少ない地域づくりを進められると期待できます。

前期高齢者

No	指標名	小地域名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
4	コア:運動機能低下者割合	福部	7.1	17	■				113	5.0	1.5	7.1
12	コア:スポーツの会参加者割合	福部	17.8	15	■				101	20.5	12.4	32.0
44	重要:グループ活動へ参加意向がある者の割合	福部	56.0	7	■				109	55.0	44.4	66.7
45	重要:グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	福部	41.1	4	■				107	38.0	27.8	50.0

4. 歩く環境は整っているが、歩いていない可能性？

- 後期高齢者における運動機能低下割合の重点対象地域である西地域では、運動機能低下者割合と関連する30分以上歩く者の割合が小地域内で低くなっていました。
- 西地域では、後期高齢者における30分以上歩く者の割合は51.6%に留まっていますが、同地域での公園や歩道が徒歩圏内にあると回答した者の割合は84.5%となっていました。
- 「歩こう会」の立ち上げやウォーキングの普及により、運動機能低下が少ない地域づくりを進められると期待できます。

後期高齢者

No	指標名	小地域名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
4	コア:運動機能低下者割合	西	23.8	16	■				101	17.1	11.9	25.3
49	重要:30分以上歩く者の割合	西	51.6	17	■				95	59.5	50.0	64.3
61	重要:公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合	西	84.5	4	■				103	76.1	47.9	86.8

まとめ

- 笑う者の割合が高いまちで幸福感のある者の割合が高く、うつ割合が低いことから、笑う者の割合が高い桜ヶ丘、福部、青谷に課題解決の手がかりがあると考えられます。
- 前期高齢者では、重点対象地域である福部で運動機能低下と関連するスポーツの会参加者割合が低くなっていましたが、グループ活動への参加意向のある者が約5割いました。
- 後期高齢者では、重点対象地域である西で運動機能低下と関連する30分以上歩く者の割合が低くなっていましたが、歩きやすい環境を生かした戦略が期待できます。

鳥取市の地域診断 概要 2019

JAGES「健康とくらしの調査2019」に参加した64市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1 市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 特徴・強みは、「要支援・要介護リスク得点の平均点」、「学習・教養サークルの参加割合」が高いことでした。
- 一方、課題は、「運動機能低下者」「うつ」が多く、「幸福感がある者の割合」が低いことと考えられます。

2 特徴・強みや課題と関連する要因

- 鳥取市は学習教養サークルの参加者割合が高いことが要支援・要介護リスク得点の平均点が低いことの一因と考えられ、これらを維持するために、引き続き学習教養サークル参加者割合を高い水準で維持することが重要と考えられます。
- 鳥取市の課題である運動機能低下割合は、スポーツの会参加者割合、30分以上歩く者の割合と相関を認め、幸福感がある者の割合の低さ、うつ割合の高さは笑う者の割合と相関を認めました。
- スポーツの会参加者割合、30分以上歩く者の割合、笑う者の割合を高めることが鳥取市の健康課題の改善につながる可能性が示されました。

3 市町村内比較から探る重点対象地域

- 鳥取市の健康課題である運動機能低下者割合には2.5倍、幸福感がある者の割合には1.4倍、うつ割合には1.9倍の小地域間差があることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、指標と前期・後期高齢者で異なることがわかりました。
- 運動機能低下者割合は、前期高齢者で福部、後期高齢者で西が重点支援対象地域でした。
- 幸福感がある者の割合、うつ割合は3つ以上に該当した江山、湖南学園が重点対象地域でした。

4 市町村内比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- 笑う者の割合が高いまちで幸福感のある者の割合が高く、うつ割合が低いことから、笑う者の割合が高い桜ヶ丘、福部、青谷に課題解決の手がかりがあると考えられます。
- 前期高齢者では、重点対象地域である福部で運動機能低下と関連するスポーツの会参加者割合が低くなっていましたが、グループ活動への参加意向のある者が約5割いました。
- 後期高齢者では、重点対象地域である西で運動機能低下と関連する30分以上歩く者の割合が低くなっていましたが、歩きやすい環境を生かした戦略が期待できます。